高校１年生

生命と環境
ＧＬＯＢＡＬＩＺＡＴＩＯＮ　～身近な事から考える～

三小田　博　昭・矢　木　　修
中　村　明　彦・西　川　陽　子
米　田　閏　一・川　田　基　生
佐　光　美　穂

【抄録】　生命も環境も21世紀に生きる者たちにとっては今まで以上によく考えなければならない課題のひとつである。日本国内にみならず地球全体を考慮に入れ、現在のそして未来の諸問題について考えてみた。

【キーワード】　生命と環境　グローバリズム　フィールドワーク　キャリア　コンピュータ　ＣＤ－ＲＯＭ　ホームページ

はじめに

例年、高校１年生は大テーマである生命と環境について学習を深めています。20世紀後半から地球環境は近代化のための工業化を推し進めました。その結果、先進国においては、生活環境が向上し、生活水準もよりよくなってきました。しかし、その代償としての地球環境は実に悪化の一途をたどり、人類が22世紀まで生き延びれるかの瀬戸際まで追いやられていると述べても決して過言ではないでしょう。21世紀を迎えた今、この世紀を中心になって担っていく立役者となるのが今の高校生以下の年代であるといえます。彼ら、彼女らがいかに環境問題を念頭に置いて人類の更なる進歩に寄与しいけるようになるかがこれからの彼ら彼女らの課題でしょう。

その一方で、地球上には先進国の何倍にものぼる地域で戦争、飢餓などのために、毎日の食べるものにもこまり、餓死していく人々がたくさんいます。生活環境や、衛生状況の劣悪化によって、病気が蔓延し、適切な処置、治療もなされることなく、ただただ、その場に横たわっているだけの状況に置かれている人々もたくさんいます。また、まだまだ年端のいかない子供たちがさまざまな理由により、学校に通うこともできず、ゆえに教育をうけることもできず、日々の食料を得るために働かなければならなくなっている、地域、国が地球上にはたくさんあります。

この１年間の学習が現段階では、机上の学習に過ぎないかもしれませんが、学校を卒業し、将来の自分のキャリアを形成していく段階になったころ、この１年間の学習が役にたってくれればよいと考えています。地球全体の生命と環境を考えていくためには、まず知ることがなければ始まりません。地球全体の問題を知ることがなくても、また、そのような問題に気づかなくても日々の生活をするのはなにの問題点もないかもしれません。しかし、自分の周りだけよければそれでいいというのはいかにも身勝手すぎはしませんか。行動をおこすためには、まず現状を知ること。相手を知っていればいるほどその行動は意味のあるものになっていくでしょう。

そのようなことを考え、この１年間の総合人間科のスタートを高校１年生120名（附属中学校出身者80名、附属中学校以外の中学出身者40名）とともにスタートをきりました。

学年テーマについて

大テーマに沿って、今年の学年テーマはＧＬＯＢＡＬＩＺＡＴＩＯＮ　～身近な事から考える～　に設定しました。例年、高校１年生の学習形態は個人学習を中心に、１年間自らが設定した個人テーマをもとに、個別に学習を踏まえていきます。その点においては、今年度も例年に変わりなく実施していています。ただし、例年、個人が１年間かけて学習してきた内容が個人のレベルでストップしてしまい、自分の研究内容と他の生徒との研究内容がお互い密接に結びついているにもかかわらす、研究内容の共有が希薄であるように感じられます。その点に今年度は注意を払っていくことにしました。つまり、学年全体が環境を学習しているので、個人で研究していることが必ず他の生徒の研究内容と何らかの形で結びついているはずであると考えました。他の生徒の研究内容をお互いに理解してい

くことによって、個人では調べきれなかった事柄や、知らなかった情報を他の生徒から学ぶ。そのように、何人、何十人がテーマをお互いに学びあい、お互いに研究内容を共有することで、自分が調べている、限られたテーマから次第に生命や環境という大きなテーマを学年全体で、そしてＧＬＯＢＡＬに理解していくことを目標としました。

資料１）

指導計画

月　日	内　容	場所
４月15日	オリエンテーション　３限保護者会 導入	各クラス
５月６日	テーマ決定 テーマに関する自己学習	各クラス
５月20日	テーマに関する自己学習 グループ決定（担当教官決定） フィールドワーク訪問先決定	指導教官別
６月３日	教育実習Ⅰ グループでのテーマ追求（指導教官） フィールドワーク訪問先決定完了	指導教官別
６月17日	フィールドワークⅠ	
７月１日	フィールドワーク発表とまとめ（指導教官）	指導教官別
７月15日	３限授業 他との繋がりをネットワーク化する	指導教官別
９月２日	教育実習Ⅱ フィールドワークⅠに基づく新たなテーマ決定	新指導教官別
９月16日	訪問先決定	新指導教官別
９月30日	訪問先決定完了 グループでのテーマ追求（指導教官）	新指導教官別
10月７日	フィールドワークⅡ	
	後期開始	
10月21日	フィールドワーク発表とまとめ（指導教官）	新指導教官別
11月４日	他との繋がりをネットワーク化する。	新指導教官別
11月18日	フィールドワークⅠ、Ⅱを収録用にまとめる	新指導教官別
12月２日	後期中間試験	新指導教官別
12月16日	３限授業	新指導教官別
１月20日	センター試験	新指導教官別
２月３日	自分の考えを発信する準備　ＨＰ	新指導教官別
２月17日	自分の考えを発信する準備　ＨＰ	新指導教官別
３月３日	学年末試験	
３月17日	自分の考えを発信する　ＨＰ	新指導教官別

1　自分で個人テーマを設定する。

４月にオリエンテーションを行い、その後約１ヶ月の間に自分が１年間研究を行うテーマを決定するのですが、多くの生徒にとっては、なかなかテーマを絞りきれず、悩める時期であります。特に総合人間科を中学時代に経験してこなかった高校からの入学者約40名にとっては、一体何をすればいいのか、総合人間科とは一体どんな教科であるのか、理解に苦しむ時期であります。学校現場ではこれまで、授業内容が教官側から一方的に事実を事実として伝えられるだけであり、生徒が自分で考えて行動する機会にあまり恵まれませんでした。特に高校受験をしなければならない公立中学の生徒にとっては、より一層その傾向にありがちであったのではないでしょうか。与えられたことに対して考えていくことはできても、自由に自己のテーマを見つけ出す作業は、至難の業であると言えます。特にその決定したテーマを１年間の長期にわたって研究していくとなるとより慎重にテーマ決定をしなくてはなりません。実際に、中にはテーマを絞りきれずに、なんとなく友達と一緒のテーマにしてしまった人も見受けられました。いずれにせよ、自由に自己のテーマを見つけ出すという作業は、自由という名のもと、自分で責任をもって１年間研究をしなければならないという意識改革に繋がることでしょう。

（１）ここに生徒が決定したテーマをいくつか紹介します。

食料問題　動物　名古屋の交通網　万博について
遺伝子について　幼児虐待　スポーツと健康
犯罪心理学　障害児について　高齢社会と住まい
恋愛　環境音楽　国際ボランティア　人命救助
森林破壊　など

（２）次になぜそのテーマにしたか、そのテーマに関心を持った理由として以下のようにあります。

・テーマ　愛知万博
　僕は瀬戸市に住んでいる。しかも青少年公園や、海上の森といった、僕がよく行く特に青少年公園は、小学生の頃から遊びに行っていて、万博がそこで行われるということなので、これはいいと思いました。

・テーマ　大気汚染
　大気中のどのような物質が、悪いのかということを知る。どのように対処すればいいのかということが分かれば、これから生きていく中で都会に住みながら、どのように住まいに工夫をすればよいのかということも分かるから。

・テーマ　森林の成長と林業
　一本の木の生長。しかしてそれがたくさん集まった地帯。林全体はどのように成長するのかを調べてみたいと思ったから。小学校の頃の理科の教科書に、数ページだけ、林の成長についての項目が入っていて、それが興味を引いたため。その林の成長をうまく促進させ、木を植えたり、切ったりする職、林業にも関心を持ったため。

・テーマ　幼児虐待
　最近よくニュースなどで取り上げられて、耳にすることの多くなった『虐待』。言葉は知っていても、そのことについては何も知らなかったので調べてみようと思い、このテーマに決定した。子どもが好きだということもあって、親側ではなく、子ども側に重点をおいて調べていこうと思った。

・ゴミ問題とリサイクル
　現在地球ではさまざまな環境問題が起こっていますが、どれも私たちには遠いものすぎて、実感がわかず、何をすればよいのかわかりません。しかし、そんな中でゴミ問題は私たちのとても身近なところにあると思います。なぜならゴミは私たち自身が直接出すものだからです。直接出すということは、私たちが何か工夫をすればゴミを減らし、地球の環境を守ることができるかもしれません。だから具体的に何をすればいいのか知るため、そして皆に伝えるため、ゴミ問題とリサイクルについて調べていこうと思いました。

以上にように、テーマを選ぶ理由の多くが、まず身近な問題をとりあげていこうとするものが多くありました。子どもが好きだから、また将来は保母さんになりたいからという理由で幼児虐待に関心を持った生徒。自分の住んでいる地域が万博会場に近いとか、ゴミ問題の最先端をいっているからという理由の生徒もいました。

またその他多くの生徒にみられることは、自分が所属している部活動なり、諸活動に興味関心をもち、それを基本に、筋力トレーニングとか、体の構造、原理などに目を向ける生徒もいました。総じて考えますと、やはり、学年サブテーマにみられる　～身近なことから考える～　ことからスタートした生徒が多くみうけられました。日々の生活で疑問に思っていることから、それを調べていくうちに、さらに疑問が生まれ、追求していく。それが個人研究の第一歩ではないでしょうか。

2　設定したテーマをどのように追求していくかを考える。

自分が興味のあるテーマを決定したものの、それをどのような方法で研究追求していくかが次の課題となります。中にはテーマが絞りきれず、あまりにもテーマが大きすぎ、何をどのようにしていけばいいのか戸惑う生徒もいました。また図書館、インターネットを利用してテーマと調べたり、するのですが、始めのうちは図書館のどこに目的とする本があるのかわからなかったりもしました。またインターネット上を単にいったりきたりして何時間も時間を費やしている生徒も中にはみられました。しかし、この一見時間の無駄なような作業を通して、最終的に目的にたどり着いたときに得る満足感は苦労した分だけ多いことでしょう。

附属中学校からの生徒たちは、毎年の総合人間科の成果もあり、またこの「生命と環境」を中学2年生でかつて経験したこともあり、テーマ研究を着実にこなしていく傾向がみられましたが、今年度初めて総合人間科を経験する、附属学校以外の中学から入学した生徒の中には、一体何をしていいのかわからず、ただただ右往左往している生徒もみられたことは事実です。

テーマへの取り組み方

- まずは私のおばさんが、福祉をうけているので、おばさんの気持ちを知りたい。あと、おばさんの知り合いとかで福祉を受けている人、老人ホームなどへ行く人やその家族のところで意見を聞けたらいいなぁと思った。（テーマ　老人福祉）
- まずはもっと資料を集め、いろいろな本を読む。そして内容をできるだけ理解した上で専門の先生に尋ねるというよりは、「意見交換」という形式で進めていきたい。（テーマ　少年犯罪について）
- 世の中の子どもたちがおかしいとされている中、幼いころの教育が大切だと考えた。その現状―学級崩壊、教育改革―などについて詳しく知りたい。（テーマ　発達心理学）
- 「エビと日本人」という本を読んで学んだことで、日本へ輸出するために、マングローブ林を伐採した養殖場で養殖しているエビやカキについて深く調べる。（テーマ　マングローブ林の減少）

3　フィールドワークを通じ、コミュニケーションを図る。

高校生に限らず、あらゆる学校というものの範疇で生活しているだけでは、自分と接点のある年代層は自分の年齢層の近辺に極限られてしまいます。まして年上では、教職員数十名でしかありません。しかも彼ら彼女らはあまりにも生徒にとっては近すぎる存在であります。そのような点でフィールドワークは自分の研究を進めていく上で、必要な情報を得る一番重要な手段の一つであるということができます。またフィールドワークは単に相手を訪問し、情報を得るためのみ存在しているわけでは決してありません。図書館の本からも、インターネット上からでも得ることのできないコミュニケーションという人間にとっては欠かすことのできない貴重な経験をもすることができることもフィールドワークの特徴の1つでしょう。

フィールドワークが意味すること

（1）訪問日時を交渉する

相手との約束、いわゆるアポイントを電話でとるところから、フィールドワークには重要な意義があります。年上の、かつ見知らぬ相手と、電話で初めて約束交渉することは、多大な緊張が強いられます。1度の交渉で、きちんとアポイントをとることのできる生徒はそれほど多くありません。お互いの日時が一致しなかったり、他の機関を紹介されたり、中には「そういうことはやっていません。」と断られてしまうこともあります。相手は引き受ける義務が全くありませんので、断られる可能性は実に多いのです。いつ、どこで、何の目的でフィールドワークをするのか。またどんな内容のことが聞きたくて訪問するのかがはっきりしていないと相手に対しても失礼にあたってしまいます。自分の研究内容がよく自分で理解できていないと、相手の質問にも的確に答えることができません。

（2）訪問し話しを聞く

初対面の人間に対して、自分の疑問に思っている内容や、意見を述べるわけであるから、生半可な下調べで訪問すると、時間を割いてくれる相手に迷惑、失礼に値します。訪問し、話しを聞くためには、どれほど、自分のテーマに関して、事前学習ができたかが問われることになります。さらに教えていただくという立場からの言葉遣いにも気をつけなければいけません。

フィールドワークで話を聞くには2つの方法があると考えます。1つは、全く基本的な内容から相手のはなしを聞く。もう1つはある程度自分で事前研究をしっかりして、疑問に思ったことを中心に質問形式で話を聞く。限られた時間の中でのフィールドワークですので、話を聞くポイントをしっかりもってフィールドワークに臨んだほうが、訪問相手にとっても、また生徒自身にとっても満足のいくフィールドワークになることでしょう。

（3）礼状を書く

文章を書くという事に慣れていない生徒が多くみられます。日頃から文章を書いていないとなかなかかけないものです。また、文章表現でどのように表現したらよいのか戸惑う生徒も多くみられます。便箋１枚程度の文章を作るのに、２時間（50分×２）使っても足りない生徒がたくさんいます。

今年は国語表現の時間とタイアップさせることにより、この作業が実に効果的に働きました。国語と総合人間科の合科の一形態として十分に考えうる内容です。

（4）１年間に２度フィールドワークを体験する

フィールドワークを２度実施することにより、より多くの情報を得ることができるでしょう。１度目は研究のなるべく初期の段階に実施する。このことにより、自分が研究し始めた段階でのよい動機付けになることができます。また、初期のフィールドワークを通じて今後どのように自分が研究を進めていったらよいのかという方針立てができます。

そして研究も終盤に差し掛かったころに２度目のフィールドワークを実施します。これが最後のフィールドワークとなるわけですから、下調べを十分にし終わり、まとめの段階での実りあるフィールドワークとなることができるでしょう。

１回目のフィールドワークは、全く基本的な内容から相手のはなしを聞きことでもようでしょう。しかし、２度目の、全く基本的な内容から相手のはなしを聞く。自分で事前研究をしっかりして、疑問に思ったこと中心に質問形式で話を聞く姿勢が大切でしょう。

今年度は１回目のフィールドワークを６月17日（１箇所訪問）に、そして２度目のフィールドワークを10月７日（２箇所訪問）に実施しました。

①フィールドワーク先の例

名古屋大学各学部　養護施設　病院　法律事務所
名古屋球場　博覧会協会　長良川河口堰
名古屋グランパスエイト　愛知県警　動物園
名古屋地方気象台　ライフセイバー講習会
カトリック教会　盲導犬教会　など

②フィールドワークへ行った感想

・訪問場所　名古屋市役所　テーマ　名古屋市の自動車に対する大気汚染対策

（感想）　たくさんの機関がいろいろなことをしている。だから市民もその意識を高めることが大切であると思った。そして環境問題の重要さを多くの人に伝えられることが環境問題に取り組む第一歩ではないかと思った。

・訪問場所　名古屋都市センター　テーマ　住みやすい都市

（感想）　都市計画といっても、その範囲はものすごく広く、住みやすいなどといっても人それぞれの好みもある。もう少しテーマを絞るか、がんばって全般的に学ぶかどちらかにしなければならないと思った。

・訪問場所　環境事務所　テーマ　ごみとリサイクル［地域の動き］

（感想）　ごみ問題は確かに無味乾燥に思われるが、いやでも真正面から取り組まねばならない、人類に課せられている重い課題でもある。自分自身、８月７日から追加された３種類のごみの分別にもなやまされているのでよくわかる。しかし、ごみ減量が大きな成果をあげてきているのが確認できてうれしく思う。

・訪問場所　名古屋精神分析研究所　テーマ　精神病について

（感想）　私はこのインタビューをすごく楽しみにしていて、実際インタビューしていた１時間はとても勉強になったと思います。私は最初精神科医と臨床心理士の区別がつかなかったのですが、親切に教えてくださったのでよかったです。事前学習とかで十分勉強したつもりでしたが、誤解していた面もあり新しい発見がいっぱいありました。前以上にこのような分野に興味をもつことができてよかったです。

4　フィールドワークで学んだ内容をまとめ、自分の言葉で伝達する。

他で得た情報を自分の中に取り込み、自分の意見として発表することは、卒業後の生活で求められることが多くあります。この技術は一朝一夕で身につけることは難しでしょう。またこのために最も必要なことは、その情報を自分で十分に理解する必要があります。また他人に分かるように説明するということは、その生徒にわかる言葉で説明、発表しなければ一方通行のおもしろみに欠けたものとなるでしょう。総合人間科を通して、身につけることができるキャリアのひとつとして、この発表する力、そして、その発表のためのプレゼンテーション能力を大きく掲げることができます。

資料2）
テーマ　及び訪問先一覧

組	No	テーマ	前期指導教官	後期指導教官	第一回訪問先	第二回訪問先(午前)	第二回訪問先(午後)
A	1	食料問題	米田	西川	名古屋食料事務所	名城大学農学部	日清食品
A	2	動物の絶滅	矢木	米田	動物愛護協会	名古屋大学理学部	名古屋地方気象台
A	3	名古屋の交通網について	矢木	西川	鉄道警察隊	地下鉄平安通り駅	市営交通資料センター
A	4	愛知万博	三小田	三小田	日本野鳥の会　日本共産党愛知県委員会	元愛知教育大学教授	元愛知教育大学教授
A	6	遺伝子操作のメリット　デメリット	西川	米田	名大理学部	名古屋大学理学部	名古屋大学農学部
A	7	大気汚染対策	三小田	川田	名古屋市役所	王子製紙(株)	名古屋都市センター
A	8	動物が人に与える影響	矢木	中村	動物愛護協会	獣医さん	獣医さん
A	9	脳死	川田	中村	五藤病院	名古屋大学医学部	熱田神宮
A	10	幼児虐待	佐光	矢木	養護施設　暁学園	くすのき学園	中央児童相談所
A	11	自然環境の保護	三小田	川田	市緑政土木局緑地部緑化推進部	緑資源センター	名古屋市環境センター
A	12	スポーツと健康	中村	佐光	名大保健体育センター	JSS　鳴海	JSS　鳴海
A	13	スポーツ	佐光	西川	名大医学部	千種スポーツセンター	名古屋大学保健センター
A	14	水の意外な姿	三小田	西川	名大難処理人工物研究センター	名古屋大学理学部	朝日新聞広報部
A	15	献血・輸血について	西川	中村	愛知県赤十字血液センター	金山献血ルーム	愛知県庁衛生部
A	16	音楽が人に与える影響	米田	佐光	八事日赤病院	名古屋音楽大学	両角音楽教室
A	17	ADHD注意欠陥・多動性障害	佐光	矢木	名市大病院小児科	知人宅	公立中学校教諭
A	18	多重人格	川田	川田	名大医学部	法律センター	中央児童相談所
A	19	エネルギー問題	三小田	西川	名大総合エネルギー科学研究所	近所の神社	熱田神宮
A	20	ゴミ問題とリサイクル	三小田	川田	名古屋市リサイクルセンター	緑資源センター	小郷産業(株)
A	21	私達の食事	西川	西川	日慧調理専門学校	ほんべクリニック	椙山女学園
A	22	原子力発電について	矢木	米田	名大病院放射線医学教室	名古屋大学工学部環境講座	名古屋大学工学部都市計画講座
A	23	遺伝子操作について	西川	米田	名大理学部	名古屋大学理学部	名古屋大学理学部
A	24	生と死に関するいろいろな考え方	川田	西川	名古屋大学	熱田神宮	布池教会
A	25	幼児虐待	佐光	矢木	養護施設　暁学園	くすのき学園	中央児童相談所
A	26	脳　～brain～	西川	中村	五藤病院	獣医さん	獣医さん
A	27	たばこについて	中村	中村	名大病院	みずほ大学	みずほ大学
A	28	遺伝子組替え食品	西川	川田	名大農学部	名古屋大学医学部	日清食品
A	29	酸性雨	三小田	米田	名古屋市環境保全局校外研究所	名古屋大学地球研究所	名古屋大学環境設計講座
A	30	障害者について	川田	矢木	児童福祉センター	名古屋千種クリニック	さわらび園
A	31	長良川河口堰について	矢木	西川	アクアプラザながら	アクアプラザながら	アクアプラザながら
A	32	親と子	佐光	川田	名古屋市児童相談所	名古屋大学教育心理相談所	名古屋大学理学部発達臨床
A	33	ジョカドーレのフィジカルとメンタル	中村	佐光	名古屋グランパスエイト	旭グランド	旭グランド
A	34	水泳	中村	中村	名大保健体育センター	JSS　鳴海	JSS　鳴海
A	35	アレルギー　～鼻炎・花粉症～	西川	川田	名大病院耳鼻咽喉科	愛知県庁福祉課	愛知県庁大気環境課
A	36	遺伝子について	西川	西川	遺伝子実験施設	家畜改良センター	家畜改良センター
A	37	麻薬	中村	佐光	県警少年課薬物乱用防止係	旭グランド	旭グランド
A	38	ドーピングについて	中村	佐光	名古屋グランパスエイト	喫茶店	喫茶店
A	39	環境問題　～ゴミ・リサイクル～	三小田	川田	名古屋市リサイクルセンター	名古屋市役所	東海女子高校
A	40	AIDSについて	中村	中村	千種保健所	愛知県赤十字センター	愛知医科大学附属病院

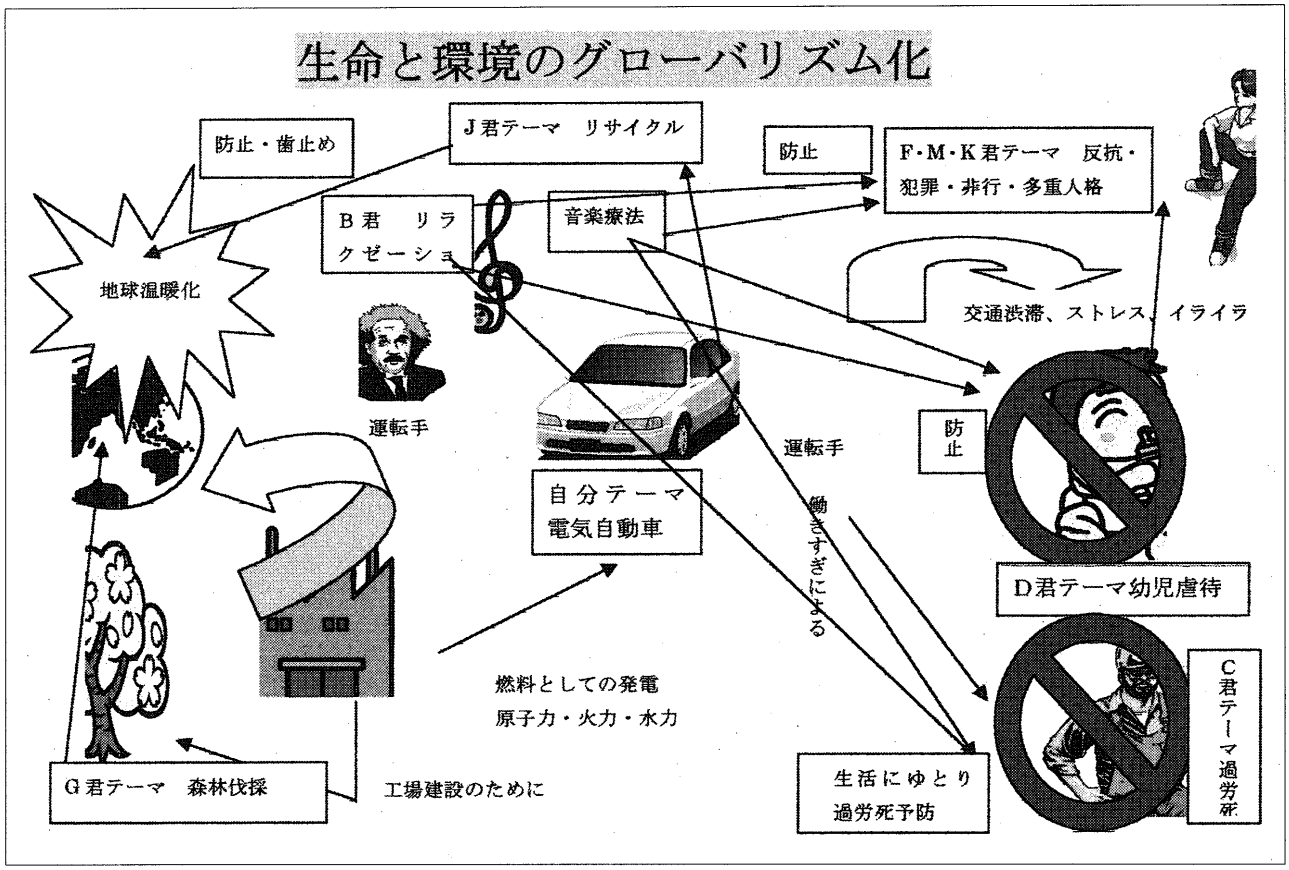
組	No	テーマ	前期指導教官	後期指導教官	第一回訪問先	第二回訪問先(午前)	第二回訪問先(午後)
B	1	都市計画と理想の都市	三小田	西川	名古屋都市センター	名古屋大学工学部	名古屋都市センター
B	2	スポーツ心理学	中村	佐光	名古屋グランパスエイト	旭グランド	旭グランド
B	3	少年犯罪の心理について	矢木	西川	南山大学	家庭裁判所	国立名古屋病院
B	4	中絶	中村	中村	名古屋市医師会看護専門学校	中部労災病院	愛知県赤十字血液センター
B	5	音楽療法と心理学	米田	佐光	八事病院	名古屋大学工学部	愛知県警
B	6	バイオテクノロジー	西川	米田	名大理学部	名古屋大学理学部	名古屋大学農学部
B	7	動物愛護	矢木	米田	東山動物園	名古屋大学医学部	名古屋大学農学部
B	8	煙草とその影響	中村	中村	名大医学部総合診療部	みずほ大学	みずほ大学
B	9	生物の成長と環境	西川	米田	名古屋大学理学部E館249号	名古屋大学理学部	名古屋大学理学部
B	10	障害児について	川田	矢木	児童福祉センター	国立名古屋東病院	さわらび園
B	11	高齢社会と住まい	川田	矢木	スタジオアンジュ	名古屋市役所	松下電工ショールーム
B	12	遺伝子治療	西川	米田	名大医学部	名古屋大学医学部	名古屋大学農学部
B	13	生活習慣病	中村	中村	愛知医科大学	社会保険事業センター	緑市民病院
B	14	恋愛が社会に及ぼす影響	米田	川田	名大教育学部	名古屋大学文学部	椙山女学園
B	15	スポーツと食事	中村	佐光	名古屋グランパスエイト	旭グランド	旭グランド
B	16	絶滅に瀕した動物たち	矢木	米田	名古屋空港	デザイン事務所	名城大学理学部
B	17	音楽と人間の体	米田	佐光	八事病院	名古屋大学工学部	愛知県警
B	18	精神病	佐光		名古屋精神分析研究所		
B	19	たばこについて	中村	中村	名大医学部総合診療部	みずほ大学	みずほ大学
B	20	子供の病気　～ぜんそく～	西川	中村	平針原クリニック	患者さん	愛知国際病院
B	21	生命と死	川田	米田	名大文学部	南山大学人類学科	
B	22	死刑制度の存廃	矢木	川田	名古屋大学法学部刑事法講座	名古屋大学法学部	豊田市駅派出所
B	23	恋	米田	西川	名大教育学部	名古屋大学農学部	名古屋大学医学部
B	24	愛	米田	三小田	名大教育学部	名古屋大学農学部	児童相談所
B	25	老人福祉	川田	矢木	緑区六田	叔母の家	デーサービスセンター
B	26	少年法・少年犯罪について	矢木	川田	内田法律事務所	日進おやこ劇場	役場青少年室
B	27	救急医療について	中村	中村	救急医療情報センター	救急救命士養成所	知人の医者
B	28	野球の最高フィジカルとメンタルについて	中村	佐光	ナゴヤ球場	千種スポーツセンター	名古屋大学保健センター
B	29	少年犯罪について	佐光	川田	名大医学部	千種警察署	名古屋大学医学部
B	30	小児科の問題について	西川	中村	名古屋第二赤十字病院　精神心療科	駿台予備校	四葉相談室
B	31	食卓環境	米田	西川	暮らしを耕す会	ほんべクリニック	椙山女学園
B	32	進化遺伝子	米田	米田	名大教育学部	名古屋大学医学部	名古屋大学農学部
B	33	ホスピス社会	中村	中村	愛知国際病院	名古屋大学工学部	千種スポーツセンター
B	34	愛知万博	三小田	三小田	博覧会協会		
B	35	今の子供と昔の子供～10年前の私と比べて～	三小田	中村	名古屋逓信病院	高田幼稚園保母さん	高田幼稚園の保護者
B	36	結核について	中村	中村	ちくさ調剤薬局	名古屋大学文学部	千種保健所
B	37	環境音楽	米田	佐光	八事病院	名古屋音楽大学	両角音楽教室
B	38	国際協力と発展途上国の子供たち	矢木	三小田	栄光学園	栄光学園	Will あいち
B	39	マングローブ林の減少	三小田	三小田	日本福祉大学	日本貿易振興会	名古屋税関
B	40	寿命	川田	三小田	東市民病院	千種警察署	名古屋大学医学部

組	No	テーマ	前期指導教官	後期指導教官	第一回訪問先	第二回訪問先(午前)	第二回訪問先(午後)
C	1	過労死	矢木	中村	愛知労働局	中日新聞社	名古屋大学教育学部
C	2	名古屋市の今後の都市計画	三小田	川田	名古屋都市センター	夢いちば実行委員会	名古屋都市センター
C	3	幼児・児童虐待	佐光	三小田	CAPNA	ひまあわり託児所	名古屋文化学園
C	4	宇宙に意志は存在するか	米田	米田	名大理学部		
C	5	精神病とセラピスト	佐光	中村	元鑑別所職員	NTT東海総合病院	NTT東海総合病院
C	6	多重人格	佐光	中村	名大医学部	家庭裁判所	国立名古屋病院
C	7	アシスタンスドッグ～生きる力をくれる犬たち～	川田	米田	中部盲導犬協会	名古屋大学農学部	大同工業大学
C	8	難民について	矢木	三小田	南山大学	栄光学園	Will あいち
C	9	核軍縮と宗教	矢木	三小田	南山大学	熱田神宮	布池教会
C	10	絶滅していく動物達	矢木	米田	東山動物園	名古屋大学医学部	名古屋大学農学部
C	11	遺伝子組み替え・クローン	西川	中村	名大理学部	名古屋大学農学部	農業試験場
C	12	難民について	矢木	三小田	南山大学	栄光学園	Will あいち
C	13	犯罪について	川田	川田	愛知県警	名古屋大学理学部	名古屋大学農学部
C	14	盲導犬について知る	川田	矢木	中部盲導犬協会	名古屋大学農学部	大同工業大学
C	15	エイズ	中村	中村	千種保健所	愛知県赤十字血液センター	愛知医科大学附属病院
C	16	動物の絶滅について	矢木	米田	東山動物園	名古屋大学理学部	名古屋大学理学部
C	17	政治と法	矢木	三小田	名大法学部	自民党県連	民主党県連
C	18	高校生の犯罪	佐光	川田	名大教育学部人間発達科学科	あじま派出所	教育委員会
C	19	命とは何かを考える	川田	川田	名大教育学部心理研究所	毎日新聞社	被害者サポートセンターあいち
C	20	重力が人間に与える影響	矢木	米田	名大理学部動理論研究室	環境医学研究所	本校非常勤講師
C	21	アジアの子供たちについて	川田	中村	田中歯科	知人宅	女性のボランティア団体
C	22						
C	23	地球温暖化について	三小田	川田	名古屋地方気象台	市環境局環境推進課	名古屋地方気象台
C	24	人命救助	中村	中村	内海海岸ライフセーバー講習会	岩塚出張所	岐阜県警
C	25	発達心理学　～子供の心を知る～	佐光	川田	名大教育学部	名古屋市教育委員会	名古屋大学教育学部
C	26	遺伝子	西川	川田	名大農学部	名古屋大学医学部	日清食品
C	27	薬物依存症	中村	西川	愛知県警	中京大学(色彩)	中京大学(心理)
C	28	国際ボランティア　and　日本語教師	矢木	三小田	名古屋国際センター	愛知県国際交流協会	田中歯科
C	29	森林破壊	三小田	西川	県庁林務課	名古屋環境局	名古屋大学農学部
C	30	宗教	米田	西川	布池カトリック教会	氷上姉子神社	熱田神宮
C	31	犯罪を犯す理由	川田	川田	名大教育学部心理研究所	毎日新聞社	被害者サポートセンターあいち
C	32	児童虐待	佐光	中村	児童相談所	名古屋家庭裁判所	名古屋家庭裁判所
C	33	スポーツ選手と一般人の体の違い	中村	佐光	本校にて	千種スポーツセンター	名古屋大学保健センター
C	34	骨髄バンクと骨髄移植	西川	中村	金山献血ルーム	中部労災病院	愛知県赤十字血液センター
C	35	遺伝子について	西川	米田	名大医学部	名古屋大学医学部	名古屋大学農学部
C	36	ゴミとリサイクル～ゴミのこれから名古屋編～	三小田	川田	守山環境事務所	名古屋市環境事業局	東谷に住む人たち
C	37	有害な物質	西川	米田	ごくう薬局	ナフコ高針店	名古屋勤労生協
C	38	林	三小田	米田	名古屋市営林局	県庁林業課	名古屋大学農学部
C	39	人工心臓	西川	矢木	名大医学部	金山献血ルーム	愛知県庁
C	40	スポーツ選手のメンタル・意識	中村	佐光	猪子石中学校	旭グランド	旭グランド

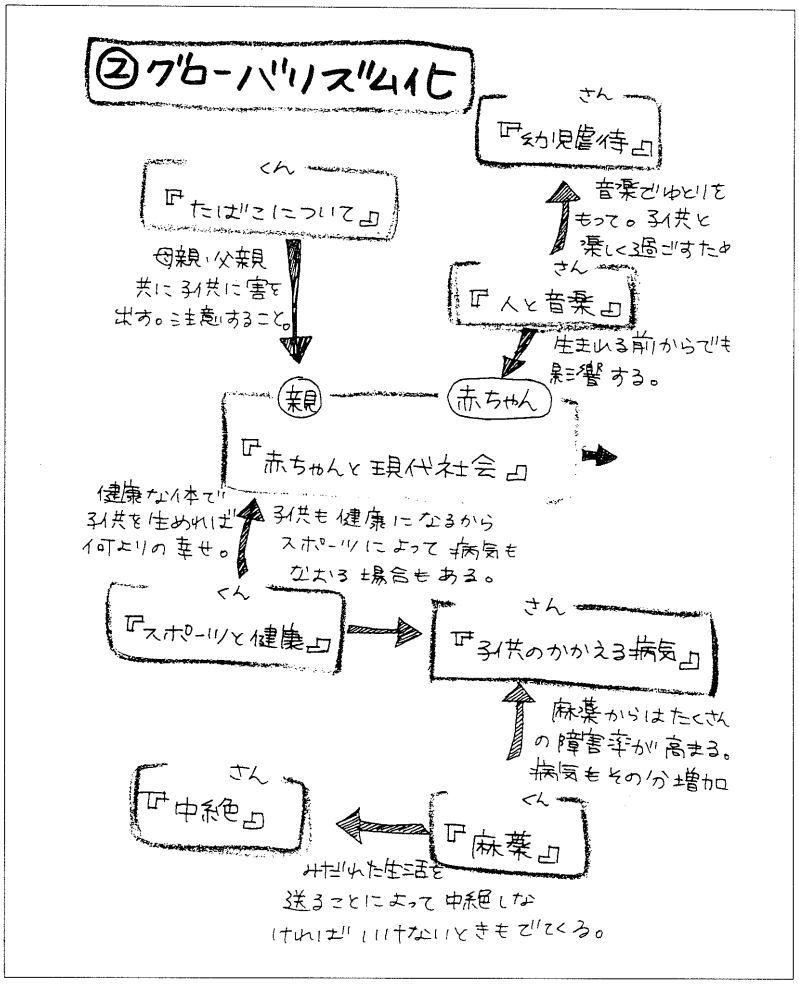
5　他の生徒からの情報を自分の情報と関連させ内容を膨らませる。

前述したように、例年の研究では、研究内容が個人の理解にとどまりがちでありました。確かに、発表をし、それを全体で理解する場面はあったでしょうが、学年全体として、それをグローバルに結びつけることはあまりなかったようにみられます。そのため、今年の総合人間科では、個人の情報を全体で結び付けようと試みました。個人の研究がどのように、他の生徒の研究とかかわりを持っているのか、意見の交換をしたり、情報を提供しあったりすることで、より深い、全体としての理解がえられるのではないかという観点からはじめました。まずは夏休みを利用して、生徒個人が他の生徒の研究内容をしらべてみて、自分だけで、グローバリズム化をする作業をした。教員が示した例と、それを元に生徒が作成した例です。

資料３）
教官作成例



生徒作品



グローバリズム化をしてみての生徒の感想

・テーマ　親と子

なかなか自分に関わりのある研究をしている人が見つからなかったが、同じ“児童虐待”というテーマでも訪問先が違えば、また別の側面が見られることがわかったり、児童虐待が子どもに及ぼす影響は子どもの内面的な成長にもかなり関わりがあると思った。今後は児童虐待から少し視野を広くして親と子の関わりをもう少しみていきたいと思う。他のテーマの人の話を聞いてみて親が子の成長の過程ですることと子が周りの世界から刺激をうけ、その中で葛藤することその係わり合いを調べてみたいと思った。

・テーマ　国際協力と発展途上の子どもたち

やはり発展途上の問題はたくさんあって、本当に深刻だということを思った。特に難民を研究している生徒との繋がりを強く感じた。教育問題というテーマは、バングラデッシュの子どもたちにとってもとにかく深刻であるし、援助をテーマにしている人とも私のテーマと似通っている。これからも他の生徒との関わりをもっている話題がたくさん出てくると思う。C組の子が言っていた、難民の発生する原因をつきとめ、減らすというのは、そのまま私が研究しているバングラデッシュの貧困に置き換えることができる。

・テーマ　高校生の犯罪

難民をテーマとしている子と私の内容とが結びつく点は“子ども”という点だけだと思っていたので、子どもが何をしているかについて尋ねてみたけれども、そのあたりはあまり調べていなくて残念でした。けれど、今彼女から聞く分には難民にしても犯罪にしても社会環境（大人の原因）が影響する点は同じである。“少年法”をテーマとする子に話を聞いてみた。少年法はどうあるべきか、というようなことを調べようとしているようだが、その内容には少々興味があった。

6　研究報告集づくり

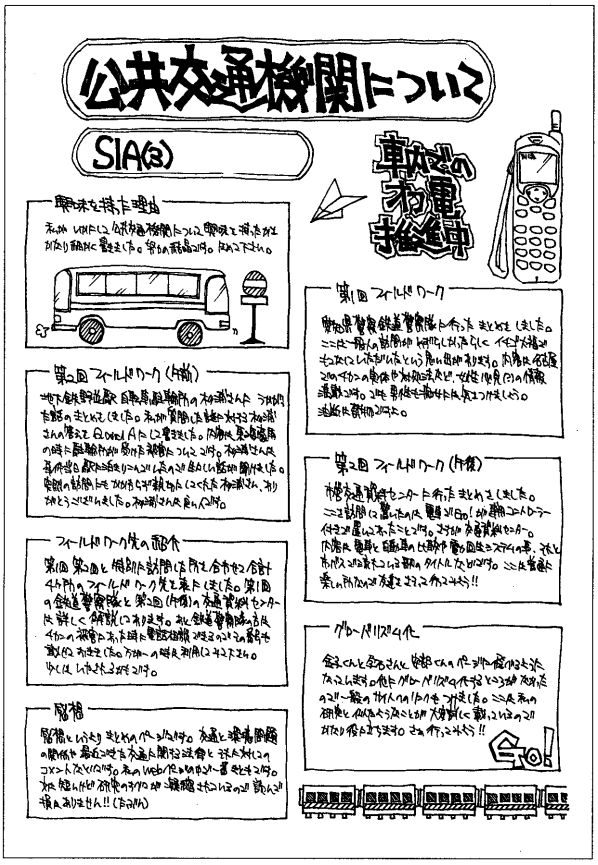
例年個人の研究内容は１冊の研究報告集にまとめら

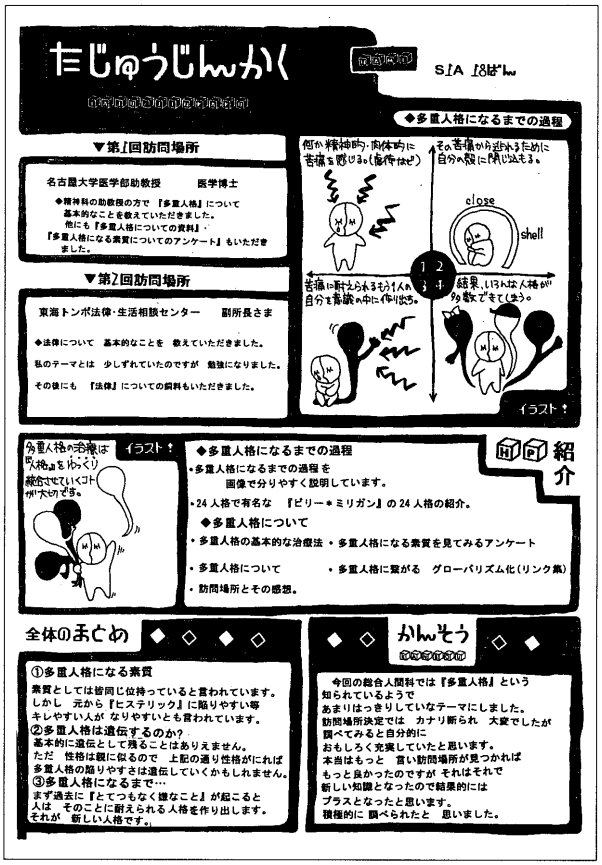
れていましたが、120名が２ページの研究報告書を作成しても全体では240ページにもなり、これに付録のページがつくと全体では300ページ強の分厚い研究報告集になってしまっていました。また生徒の立場から考えて、１年間も研究してきた内容が２ページだけでは十分にまとめきれない、という当然の希望もでました。しかし、研究報告集を名古屋市の電話帳なみに分厚くすることは、コストの面からも、後々読み返す効率性においても不都合なことだらけでしたので、今年度は初めての試みとして研究内容をＣＤ－ＲＯＭ化する方向にすすめました。

しかしただ単にＣＤ－ＲＯＭを１枚づつ生徒に手渡してしまうだけでは、実に味気ないものになってしまうため、例年どおり手書きの報告集も作成しました。ただしその内容は自分がＣＤ－ＲＯＭの中で述べていることの紹介、つまりは自分の研究ページ紹介を中心に作成しました。そしてその報告集の最後にＣＤ－ＲＯＭを添付し完成版にしました。ページ数も130ページで例年の２分の１から３分の１と収縮されコストの面でも同じくらいの削減となりました。

資料４）

自分たちの研究成果であるホームページを紹介したページ（手書き）





SIA 25

ホームページ紹介

幼児虐待

～将来の自分と繰り返される虐待～

このテーマに関心を持った理由

最近ではあまり騒がれなくなった"幼児虐待"。テーマを決定するまでの経路を書きました。

第1回フィールドワーク先紹介

東海市にある児童養護施設暁学園に行き、園長のSさんにお話を聞きました。その紹介です。

第2回フィールドワーク先紹介

午前中に八事の児童相談所のTさんに、午後からは中央児童相談所のKさんにお話を聞きました。

学習内容～その1～

第1回のフィールド先での話をまとめました。ここでは主に、虐待された子の気持ちなど目に見えない内面的な部分について取り上げました。

学習内容～その2～

第2回のフィールドワークで聞いたお話です。第1回の時とは対照的に、関連機関の役割や虐待とは何かなど、基礎的な部分について取り上げました。

自分なりの問題解決案

2回のフィールドワークで合計3人の人からお話をうかがって、自分だったらどうするかなど自分なりの答えを書きました。感想もここに一緒に書きました。

更なる疑問点

2回に渡るフィールドワークで学んだ事、自分なりに答えなるものを出した結果、疑問に思ったことを書きました。

グローバリズム化

同じテーマで"幼児虐待"や、幼児虐待がもたらす"精神病"や"少年犯罪"を調べている人のホームページにとぶことが出来ます。

この1年間の学習で、今まで知らなかった"幼児虐待"の実態を知りました。それは決して明るいものではないし、まだまだ問題点はたくさんあります。そして施設の方が言っていた通り、虐待がなくなることはないと言うことも、現状を知って実感しました。2回のフィールドワークだけでは、まだ知らない事がたくさんあり、私一人の力で虐待を受けている全ての子が救える訳ではありませんが、虐待で苦しでいる子が一人でも多く幸せにしてあげられたらいいなぁと思います。でも決して自分一人の力でどうにかしようなんて考えないで下さい。

NIKATOH

環境音楽

SIB 37

☆ホームページ紹介☆

index

- テーマ決定の理由
- 第1回訪問
- 第2回訪問（午前）
- 第2回訪問（午後）
- グローバリズム化
- まとめ・感想

〈テーマ決定の理由〉

ここには、『なぜ、環境音楽というテーマにしたか』という理由が書かれています。

⇒実際はこんなリンク実在しません。ゴメンナサイ。

〈第1回訪問〉

前期は『音楽療法』について調べました。そこで音楽療法を実際に行っている『八事病院』に訪問に行きました。そこでは『なぜ音楽療法が行われるのか』や、『患者さんの症状はなにか』などの質問をしました。

〈第2回訪問 ～午前～〉

音楽療法についてはわかったので、『音』について調べてみようと思い、名古屋市立音楽大学に訪問しました。ここでは、『音』について、機械的なお話しが聞けました。

〈第2回訪問 ～午後～〉

第1回訪問で痴呆老人のための音楽療法を知ったので、それを実際に行っている、私のピアノの先生に訪問しました。

〈グローバリズム化〉

音楽療法 → 人間と音楽

幼児虐待 → （少年）犯罪心理学

こんな感じにリンクさせました。

⇒パソコンorフロッピー関係で『人間と音楽』のリンクが入れませんでした。ゴメンナサイ。

〈まとめ・感想〉

ここはペイントを使って書いてみました。けっこう自信作です。

☆感想☆ ⟸ 乾いてしまう乾燥じゃないよ

1年間、環境音楽について調べてとても勉強になりました。高2でも総合人間科を頑張りたいです。

2000年度 総合人間科 『生命と環境』 ～webページの説明～

S1C 18

学習テーマ：高校生の犯罪

さて、私が製作したwebページについての説明を始めましょうか。説明不十分な点につきましては、実際にwebページを見て下さい。

＊フィールドワークについて訪問先の方の名前は取入れてふせさせて頂きました。

＊ページ構成＊

第1回フィールドワーク

心理学の教授。

名古屋大学教授

- 6/17(土) 13時～
- 名古屋大学研究室
- …東は、(web ページにも書いたけど)…なんなんと遅刻!! 知ってしまったら場所の下調べ不十分＊

第2回フィールドワーク 1.

愛知県北警察署地域課警部補

- 11/11(土) 午前中
- 伏見 忠三
- 11/16(木)に少年事件の緊急体制に入るそうで、この日になった。資料も頂き、大変お世話になった。

第2回フィールドワーク 2.

名古屋市役所 教育委員会 生涯学習部 青少年室長

- 11/16(木) 14時～
- 名古屋市役所 教育委員会 生涯学習部 青少年室
- 用意をしていなかった。

index

- テーマ：高校生の犯罪及び心理
- テーマ決定理由：テーマ決定当時に、同じ年程度の人が犯罪を起こすのを良く目にしていたから。(似たて多かな、である。)
- リンク諸々。

グローバリズム化

関係あるテーマを、4つの分野に分けてグローバリズム化した。

1) 犯罪関係 少年法・犯罪学 etc
2) 幼児関係 幼児虐待
3) 心理学関係 精神病・多重人格 etc
4) 国際関係 難民

学習内容・まとめ

1) 新聞記事についての学習・考察 五千万円恐喝事件を例に
2) 訪問を通じての学習 犯罪の背景・非行の要因 etc
3) 今後の課題（及び対処法） 人間関係を積極的に etc

感想

口語（一話し言葉）で書いたので、つかみどころがない文章だが一応感想である。

- やる気が起こらなかった事で1～2年の適当な取り組みへの反省。
- 学習を通しての同じ年程度の犯罪者（それに近い人）への私の考え。

可哀想 or not?

☆わたしのテーマ…骨髄バンクと骨髄移植。

SIC 34

ホームページしょうかい

何とか完成しました☆

check☆エイ!!

☆皆様ごきげん

…indexのpage… ふつうのindexです。

…第1回訪問先のpage… 金山献血ルームでしたことを書きました。何だかとても中途半端におわってしまっています…ごめんなさい

…第2回訪問先のpage… 午前→中部労災病院、午後→愛知県赤十字血液センターでしたことや、うかがったお話をかきました。このpageもかなり中途半端です…ごめんなさい

…まとめ&感想のpage…「まとめ」とか書いてあるけど"まとめ"ではないし、感想はそれなりに。

…グローバリズムのpage… 2人…3人くらいしかいなかった者（良）

☆ こんなところでしょうか。とても中途半端なホームページになっとります（死）

MATOME

個々考えてみました☆

- 「骨髄バンク」という名前を聞いたことはあっても、どんな組織なのか知らない人が多いと思う。もっともっと知られたらドナー登録する人も増えると思います。
- 「命の大切さ」というものを知ることは大事だと思います。大切な命だからこそ、「尊い」と思うし、「生くしていはいけない」と思う。だからこそ「救う」ことをしなくてはいけないと思います。命を救うことはとても素ばらしいことだと思います。
- 「骨髄バンク」は命の大切さ、命を救うことのすばらしさを知っている人たちの集まりだと思います。

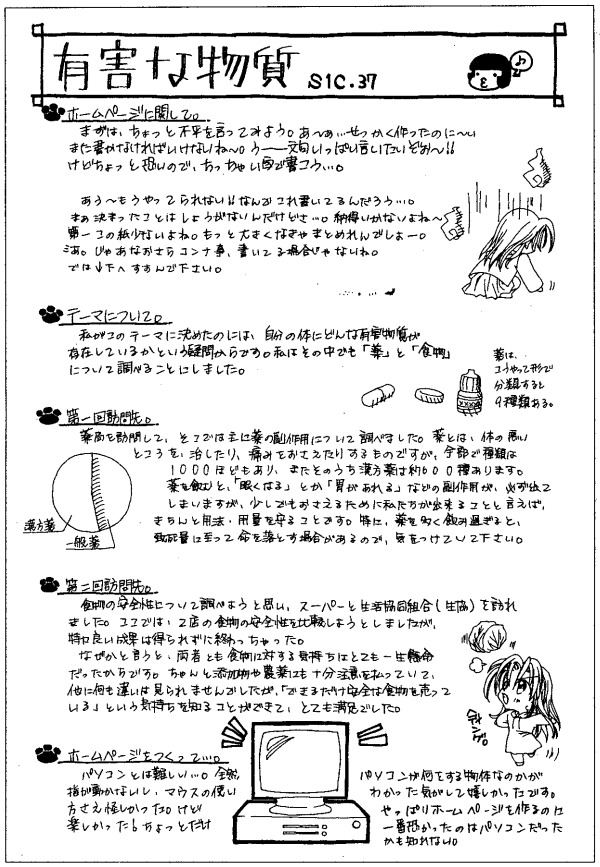
あんまりまとめになってないけ ただの個人的な意見です☆

20才になったらドナー登録しよう☆

テーマがおかしかったなあ、資料もツ ないし、訪問先もちがい、大変でしたけ でも、前よりは骨髄バンクについての知識がふえたかなぁ。だから20才のドナー登録にだけは、良い準備ができました。

1年間の感想☆

おわりんご



7　コンピュータ学習を通し、情報伝達手段を膨らませる。

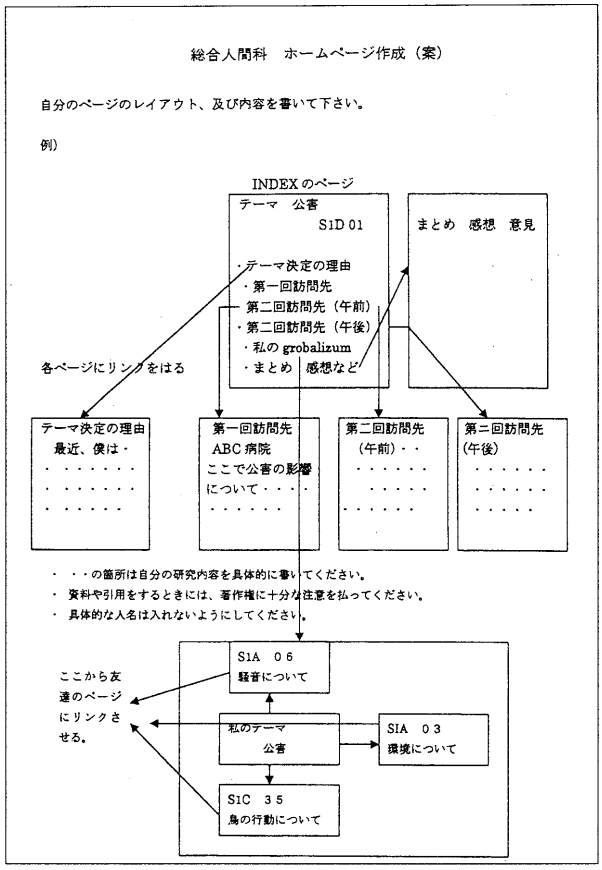
今年度の総合人間科の特徴は先に述べましたグローバリズム化とここで今から述べる個々の研究内容をＣＤ－ＲＯＭ化し、情報を残すということであります。

好都合なことに、高校１年生のカリキュラムの中に、今年度から新しく情報教育がスタートしたことも幸いでした。生徒たちは週２時間、情報教育の時間にコンピュータ利用を学習するので、情報の教官の援助もあり、この情報授業と総合人間科のコンピュータプレゼンテーション（研究報告書）とをタイアップさせ、国語表現同様、合科の形をとりました。このことにより、コンピュータに不慣れな、生徒も、総合人間科の時間にコンピュータ操作をはじめから学習をする必要がなく、非常に効率的に報告集が完成されました。

またコンピュータ活動全盛の現代社会、得てすれは教員よりも、生徒の方がコンピュータ操作に秀でている場合がよくあります。当年もそのとおりであり、生徒同士で教えあい、より高度な作業を行っていました。

資料５）

個人研究のページづくりで教官側が提示したプリント



コンピュータを利用した研究報告集つくりに関する生徒の感想

・パソコンとは難しい。全然指が動かないし、マウスの使い方さえ怪しかった。けど楽しかった。ちょっとだけ、パソコンが何をする物体なのかがわかった気がして嬉しいです。やっぱりホームページをつくのに、一番恐ろしかったのは、パソコンだったかもしれない。

・自分のホームページで一番苦労したのは画像です。グラフや絵を自分でかくのは大変でした。普通に鉛筆で描くならまだいいけど、マウスで描くのはとても難しかったです。字ばかりではなくて、絵や画像を多く取り入れたので、以外とみやすいホームページになったと思います。ただ絵や画像ばかりで内容が薄くなってしまった可能性がないとはいえません。はじめのページはまず他のページへのリンクだけで、特に意味はありません。「千種保健所」や「赤十字血液センター」「愛知医科大学」などで学んだことや感想はホームページをみてください。グローバリズムのところは結構苦労しました。自分のテーマが「エイズ」だったので

グローバリズムした人は生と死に関係のある人や遺伝子に人にリンクしました。

・ＨＰをつくるのはとても苦労しました。なかなかリンクがうまくはれなかったり、背景画像とかに凝りすぎてすごく重くなり、フロッピーに収まり切れなかったりしましたが、おもしろかったです。

・僕の今回のＨＰづくりを振りかって思ったことは、全体的にてんやわんやだったということです。その要因の１つは、キーボードをうつということ。今までの僕ときたらパソコンといったらインターネットとオートマ君程度で、キーボードを打つことといったら皆無に等しかった。そんな中、パソコンを使うといったら「飛んで火にいる夏の虫」状態で、手書きの数倍も時間を要してしまいました。

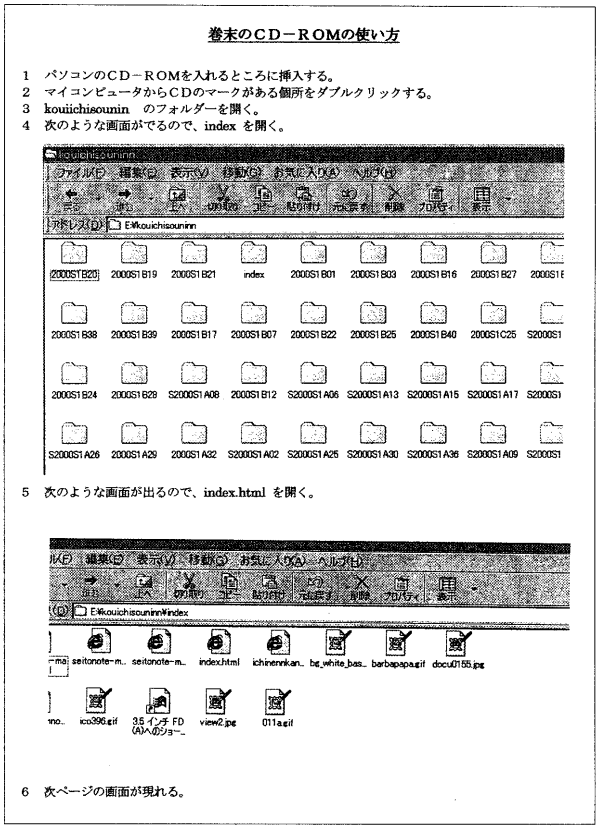
・まさかホームページづくりがこんなに疲れる作業だったなんて、最初は思いもしなかった。背景やアイコン等を提供してくれるページを見るのに、多くの時間を費やしてしまい後々の締め切りに追われる羽目になってしまった。私は自分のホームページのイメージを“空（ＳＫＹ）”にしたかったので、背景はすべて“空（ＳＫＹ）”にした。なので全体的に青が基調となっている。正直にいうともっと時間をかけて、隅々まで工夫を凝らしたホームページにしたかった。そこのところがちょっと悔やまれる。

以上、生徒の感想からもわかるように、多くの生徒はインターネットを中心にパソコンを使った経験があるのみでほんの極少数の生徒しか以前ホームページを作ったことがなかった。他人が作ったホームページは見てみたことがあるが、自分で作ることに対しては、かなり悩みながらのトライであった。しかし、全般的にアイコンや、背景にこだわった色鮮やかな見ていても楽しいホームページがたくさん作成されました。ただアイコンや、背景にこだわっるために、研究内容がおろそかになった生徒も中にはみられました。生徒の感想にもあるように、もう少し時間があれば、もっと満足のいくものができた生徒もたくさんいることでしょう。

しかし、ホームページをせっかく作成しても、著作権の問題や、フィールドワークでのプライベートな問題など多くの解決していかねばならない課題がたくさんあるために、今回のホームページは学外の世界には発表することを控え、本校内だけの校内ランのみで公表しました。今回のホームページづくりをいかして、今後は学外への情報提供、情報公開を考え、総合人間科のホームページを作成していければと感じています。

資料６）

研究報告集巻末ＣＤ－ＲＯＭについて



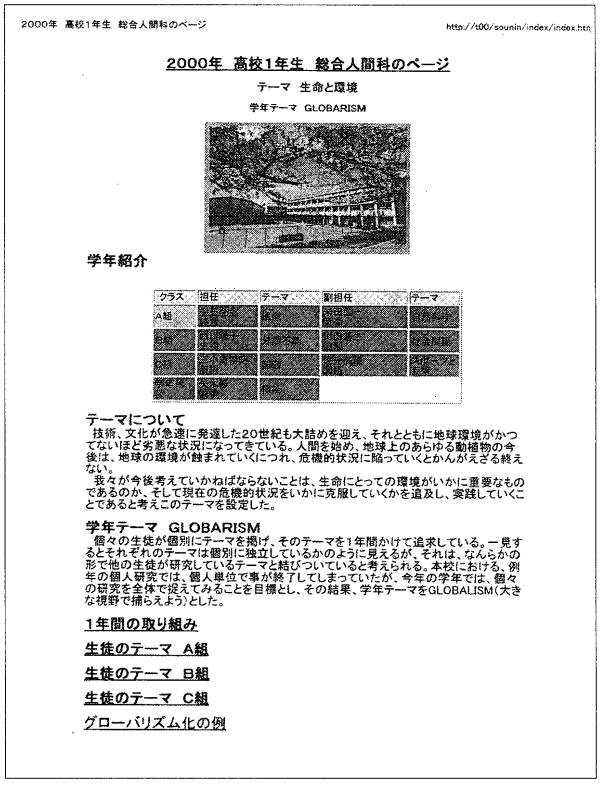
巻末のＣＤ－ＲＯＭの使い方

1　パソコンのＣＤ－ＲＯＭを入れるところに挿入する。
2　マイコンピュータからＣＤのマークがある個所をダブルクリックする。
3　kouiichisounin　のフォルダーを開く。
4　次のような画面がでるので、index を開く。

5　次のような画面が出るので、index.html を開く。

6　次ページの画面が現れる。

資料７）



2000年 高校1年生 総合人間科のページ　http://t00/sounin/index/index.htm

2000年 高校1年生 総合人間科のページ

テーマ 生命と環境

学年テーマ GLOBARISM

学年紹介

クラス	担任	テーマ	副担任	テーマ
A組				

テーマについて

技術、文化が急速に発達した20世紀も大詰めを迎え、それとともに地球環境がかつてないほど劣悪な状況になってきている。人間を始め、地球上のあらゆる動植物の今後は、地球の環境が蝕まれていくにつれ、危機的状況に陥っていくとかんがえざる終えない。

我々が今後考えていかねばならないことは、生命にとっての環境がいかに重要なものであるのか、そして現在の危機的状況をいかに克服していくかを追及し、実践していくことであると考えこのテーマを設定した。

学年テーマ GLOBARISM

個々の生徒が個別にテーマを掲げ、そのテーマを1年間かけて追求している。一見するとそれぞれのテーマは個別に独立しているかのように見えるが、それは、なんらかの形で他の生徒が研究しているテーマと結びついていると考えられる。本校における、例年の個人研究では、個人単位で事が終了してしまっていたが、今年の学年では、個々の研究を全体で捉えてみることを目標とし、その結果、学年テーマをGLOBALISM（大きな視野で捕らえよう）とした。

1年間の取り組み

生徒のテーマ A組

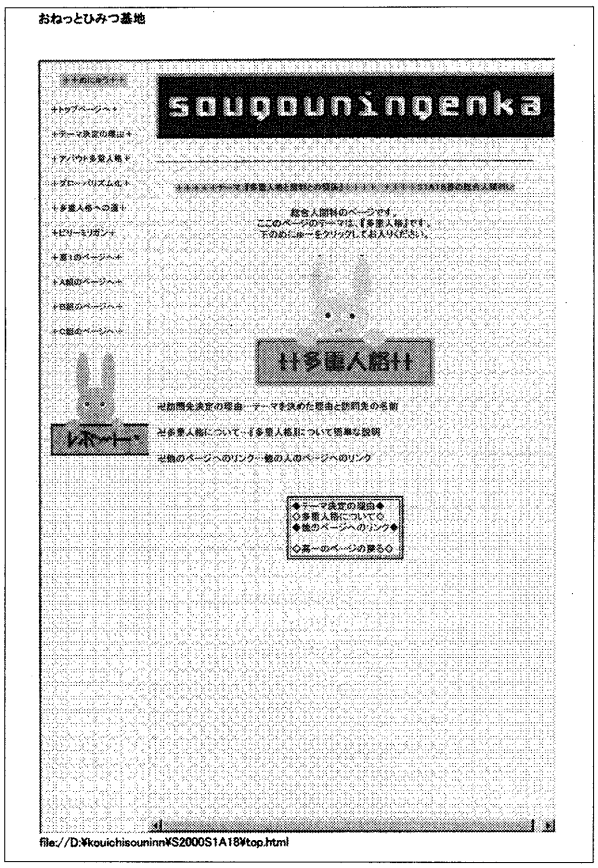
生徒のテーマ B組

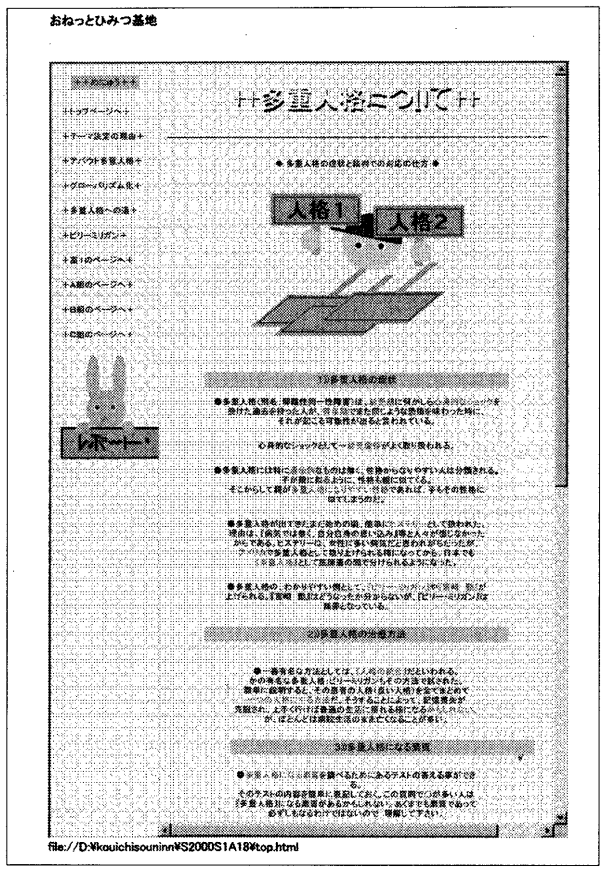
生徒のテーマ C組

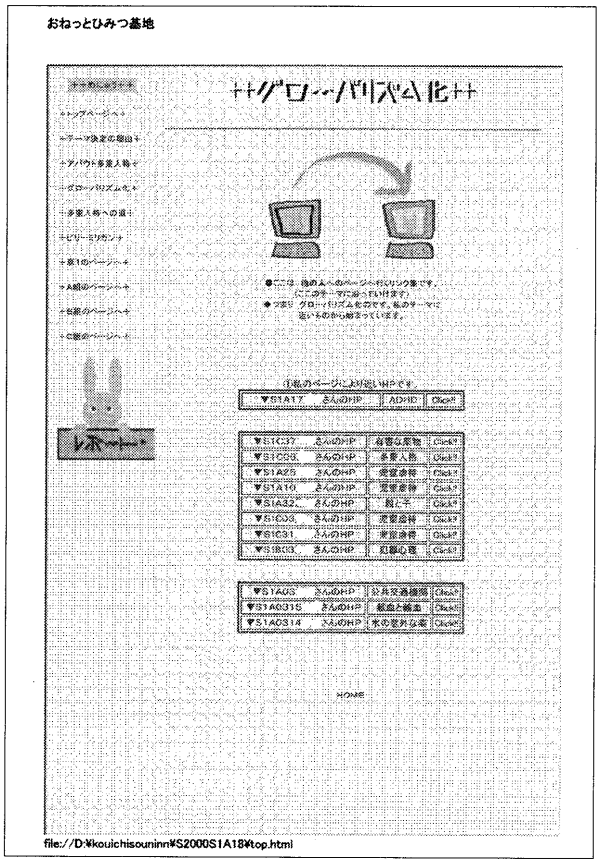
グローバリズム化の例

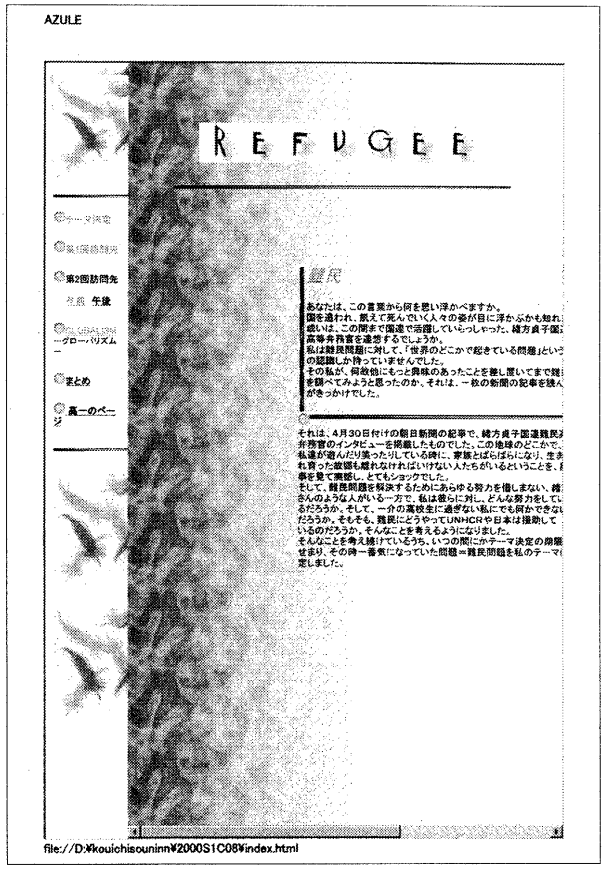
資料７）

生徒のホームページ

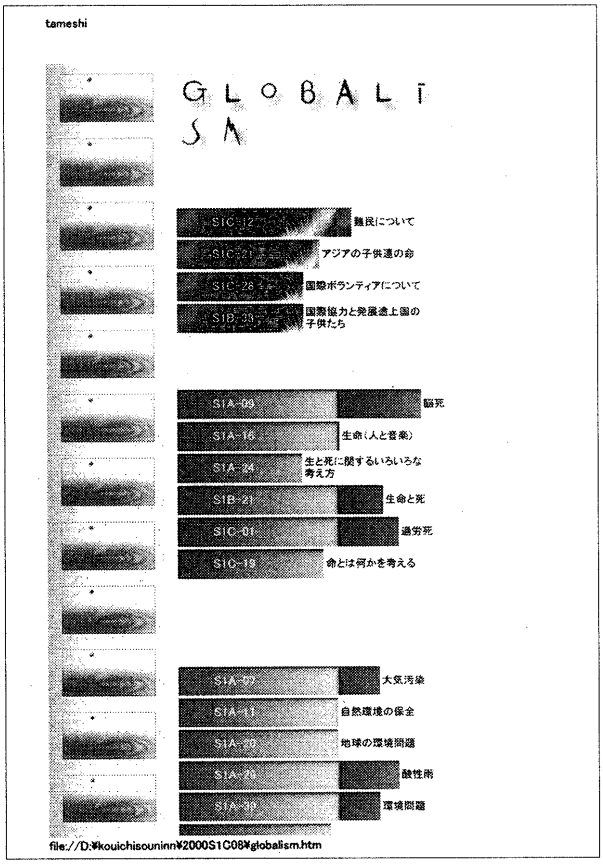




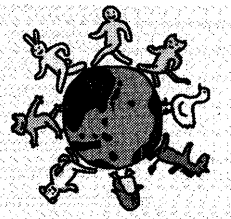



AZULE
REFUGEE
難民
あなたは、この言葉から何を思い浮かべますか。
国を追われ、飢えて死んでいく人々の姿が目に浮かぶかも知れ
或いは、この間まで国連で活躍していらっしゃった、緒方貞子国
高等弁務官を連想するでしょうか。
私は難民問題に対して、「世界のどこかで起きている問題」という
の認識しか持っていませんでした。
その私が、何故他にもっと興味のあったことを差し置いてまで難
を調べてみようと思ったのか、それは、一枚の新聞の記事を読ん
がきっかけでした。
それは、4月30日付けの朝日新聞の記事で、緒方貞子国連難民高
弁務官のインタビューを掲載したものでした。この地球のどこかで、
私達が遊んだり笑ったり している時に、家族とばらばらになり、生き
れ育った故郷も離れなければいけない人たちがいるということを、
春を覚て衝撃し、とてもショックでした。
そして、難民問題を解決するためにあらゆる努力を惜しまない、緒
さんのような人がいる一方で、私は彼らに対し、どんな努力をして
るだろうか、そして、一介の高校生に過ぎない私にでも何かできな
だろうか。そもそも、難民にどうやってUNHCRや日本は援助して
いるのだろうか。そんなことを考えるようになりました。
そんなことを考え続けているうち、いつの間にかテーマ決定の期
せまり、その時一番気になっていた問題＝難民問題を私のテーマ
定しました。
テーマ決定
第1回訪問先
第2回訪問先
午後 午後
GLOBALISM
グローバリズム
まとめ
高一のページ
file://D:¥kouichisouninn¥2000S1C08¥index.html

AZULE
第1回訪問先
南山大学助教授
諸事情により、この先生に何ったお話については私の体験記（？）のような形で発表したいと思います。
テーマ決定
第1回訪問先
第2回訪問先
午後 午後
GLOBALISM
グローバリズム
まとめ
高一のページ
私はフィールドワークで南山大学の助教授にお話を伺った。
実は、？、8件アポ取りの電話を重ね、ことごとく玉砕した後のやっとのOKである。
アポを取る際に感じたのは、「名古屋には難民はいないし、かかわっている人もほとんどいない」ということであった。
公的な国間ではが務省、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）、それ以外にも、
活動している難民の弁護士会、ジャイカや青年海外協力隊など思いつく限りをあたってみたのだが、そのほとんどは「難民に対する援助活動はしていない」あるいは、「東京（大阪）の本部では活動していて、活動について話せる人間もいるが、名古屋では……」といわれるばかりだった。
難民問題は遠い、もっと身近に感じよう、もっと親身になって援助をしようと思っても、
平和な日本にすむ私たちにとっては、やはり「世界のどこかでの問題」にすぎないのだろうか。
南山大学へたどり着くまでも遠かった。
なんとか電車に乗り遅れることもなく（30分）に1本しかないのだ（！）、道に迷うこともなく
瀬戸キャンパスまで着いたら、隣接する駐車場大のほうで先生が待っておられるといわれ、また移動。
そこで私たちはやっと先生にお会いすることができた。
予想していたよりずっと若くて精力的な先生であった。……そして、自己紹介をすませ、先生はおっしゃった。
「近くの喫茶店でお茶でも飲みながら話しましょうか」
そしてまた移動。話を聞くまでが遠いと思ったのは、きっと私だけではあるまい。
先生はとても気さくな方だった。
実は日本人でなくーイタリアの方なのだが、日本語がとてもうまい。そのせいかどうかは知らないが、とてもリラックスしてお話を聞くことができた。
肝心のお話の内容だが、実はあまりない。
それが、体験記形式にせざるを得なかった理由の一
file://D:¥kouichisouninn¥2000S1C08¥index.html


tameshi
GLOBALISM
S1C-12 難民について
S1C-21 アジアの子供達の命
S1C-26 国際ボランティアについて
S1B-38 国際協力と発展途上国の子供たち
S1A-09 脳死
S1A-16 生命（人と音楽）
S1A-24 生と死に関するいろいろな考え方
S1B-21 生命と死
S1C-01 過労死
S1C-15 命とは何かを考える
S1A-07 大気汚染
S1A-11 自然環境の保全
S1A-20 地球の環境問題
S1A-28 酸性雨
S1A-30 環境問題
file://D:¥kouichisouninn¥2000S1C08¥globalism.htm

国際協力と発展途上国の子どもたち



総合人間科

国際協力と発展途上国の子どもたち

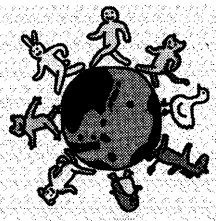
このテーマを選んだ理由

中学3年の時に行っていた塾の塾長が長い間国際協力に携わっていた方で、自分が経験なさってきた事を私に良く話して下さった。それで自然と「国際協力」と言うものに興味を持つようになった。それから、中学の公民の授業で見たストリートチルドレンの写真に、すごくショックを受けた。自分と同じぐらいの子どもたちがゴミの山をあさる姿を見て、まず最初に思ったのは、「何してるの？この子たちは。」って言う様な事だったと思う。自分は日本と言う裕福な国に生まれて、何の苦労もせず、多くを人の力に頼って生きている。でもこの子たちは、違う。自分の力、それだけで生きている。それまでも、こういう子たちが居る事は知っていた。でも、実際どんな生活をしているかなんて、考えた事もなかった。それでいつか機会があったら、その子たちの事を知りたいと思っていた。だからこの機会に、国際協力と苦しい生活をしている子どもたちについて調べることにした。

バングラデシュ
第1回訪問先：栄光学園八幡教室
第2回訪問先：午前：栄光学園八幡教室
第2回訪問先：午後：ウィルあいち
グローバリズム化

file://D:¥kouichisouninn¥2000S1B38¥index.html

バングラデシュ



バングラデシュ

「国際協力」とか「発展途上国の子どもたち」について調べていくと、とにかく資料が膨大な事に気が付いた。これじゃ収拾つかないって事で、「発展途上国」ってのをやめて、「バングラデシュ」に的を絞る事にした。バングラデシュにしたのは、ストリートチルドレンがいること、そして世界で最も貧困な国の一つであるからである。バングラデシュの子ども達のおかれている環境について調べていくことにした。

バングラデシュという国

人口	1億2690万人(99年世界人口白書)(日本とほぼ同じ)
面積	147570平方キロメートル(日本の4割弱)
首都	ダッカ
GDP(国民総生産)	33896億万ドル(97/98/バングラデシュ統計局)
1人あたりのGDP	268ドル
通貨	タカ

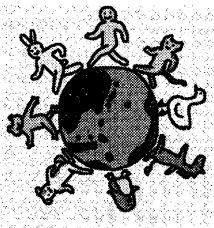
バングラデシュのGDPは338億9600万ドル。それに対して日本のGDPは4兆円以上なのでバングラデシュの100倍以上なのである。これを見ただけでも、単純に、経済的に本当に貧しいんだという事が実感出来てしまう。

バングラデシュは印パ分離独立の後、東パキスタンを形成していたが、1971年にパキスタンから独立し、バングラデシュ人民共和国として出発した。日本の約4割の面積に約1億2000万人が住む世界有数の人口過密国だ。1年は雨季と乾季に分かれ、雨期には国土の半分以上が水に覆われる。土地は非常に肥沃で、稲作を中心に栄えてきたが、農業以外に目立った農業がない上に洪水などの自然災害が多いこともあり、経済的に最悪の状態にある。人口の約8割が農村地帯で伝統的な生活を営んでいるこの国で、最も深刻なのは農民たちの生活の問題で、農民でありながら自分の持っている土地だけでは生活が出来ない土地なし農民が農村人口の6割もいることである。

バングラデシュの初等教育の純就学率は男子が66%、女子が58%だが、第5学年まで残っているのは47%。バングラデシュでは少なくとも1800万人のどもたちが教育を受けられないでいるという。働かなければならないために学校へ行く時間がなかったり、仕事で疲れきって学校へ行く元気がなかったりと、児童労働は就学を妨げる大きな理由の一つだ。
教育を受けられないことが貧困を生み、貧困が児童労働を招き、児童労働が教育を妨げる。この悪循環を断ち切るためには、全ての子どもが学校へ通えるようにすることが必要である。

file://D:¥kouichisouninn¥2000S1B38¥bangura.html

第一回訪問先



第一回訪問先：栄光学園八幡教室,柴田塾長

塾長の経歴

塾長がなさって来た事は、次の通りである。塾長の仕事はあまり日本では知られていなかった国へ最初に行って、その国ではどんな援助が必要か、一番最初に調べる事だったそうだ。ただバングラデシュに行ったことは一度しかないそうなので、具体的な話は出来ないそうだ。

1982	タイ、カンボジア国境のカンボジア難民キャンプの＊コーディネーター
1983ー1984	ソマリアでNGO(非政府団体)のJVCでエチオピア難民の自立農業プロジュクトのコーディネーター
1986ー	タイのJVCのコーディネーター
1991	戦争が終わった直後のイラクで戦争の被災民の救援
1992	ソマリアで内戦の調査
1993	南アフリカでアパルトヘイトで苦しむ黒人の支援活動。ガテラマでインディオの女性支援。カンボジアとアフリカの民間団体の意見をまとめ、政府に提言紹介。

＊コーディネーターとは通訳や病院の管理をする仕事のことです。

今回の訪問で学んだ事

バングラデシュの洪水について

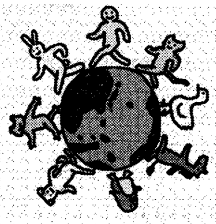
バングラデシュは本当に洪水が良く起こる国だ。その洪水の原因はガンジス川の氾濫である。ガンジス川の源流はあのヒマラヤである。そしてなんとそのヒマラヤの伐採により、洪水がひどくなっているそうだ。バングラデシュの歴史的背景や地形を詳しく知ることは大切な事だと塾長はおっしゃった。

バングラデシュは本当に貧困な国である。貧困は栄養不良を招き、子どもたちが教育を受けることが出来ない状況を招く。そしてそれがまた貧困を招く。こういう悪循環を断ち切ることがバングラデシュの最大の課題であるそうだ。早くからバングラデシュに援助活動を行っている民間の「シャプラニール」という海外協力団体があり、名古屋でも活動しているそうなので、ここなら実際現在バングラデシュに関わっている方の話が聞けると思う。

参考資料

file://D:¥kouichisouninn¥2000S1B38¥eikou.html

第2回訪問：午後



第2回訪問先：午後：ウィルあいち，風"s，土井ゆき子さん

第一回訪問の時に塾長から紹介してもらった、シャプラニールという組織の土井たかお子さんの所へ伺わせてもらった。

事前学習

シャプラニールは早くから、バングラデシュの人々の生活向上のため活動してきた民間の海外協力団体である。1972年に設立され、74年には初めてバングラデシュに日本人駐在員を派遣し、以来農村の貧しい農民のための協力活動を進めている。

ショミティ

バングラデシュでは貧しい農民たちが20人ほど自発的に集まって作る相互扶助グループの「ショミティ」という形で活動をしている。1つのショミティは20人前後で男女別々に構成されていて、毎週定期的にミーティングを行い、少額の貯金を積み立てている。この貯金はショミティのメンバーの子どもが病気になったとき等などの緊急時や、各ショミティの興味と能力に応じて選ばれる、米を安い時期に大量に買っておき、相場の高い時期に転売するストック・ビジネス、共同で土地を借りての耕作、牛を飼ったりする事の元手に使われる。

ショミティの他にも様々な活動をしている。例えば保健衛生の環境を改善するために手押しポンプ井戸やトイレの普及活動や子どもたちの初等教育を保障するための補習教室、大規模な自然災害の緊急支援活動なども実施している。

今回の訪問で学んだこと

バングラデシュスタディツアーの報告書

土井から、土井さんご自身が参加されたシャプラニールのバングラデシュ・スタディツアーの報告書をいただく事ができた。スタディツアーのちゃんとした定義というのが私には分からないんだけれど、この報告書を読んで受けた感じでは、現地に行って自分自身でその国のありのままの生活に触れよう！っていう感じだと思う。

この報告書は私にとって本当に興味深かった。このツアーには十数人の方が参加されていて、それぞれの方がそれぞれの視点から報告書を書かれていて、いろいろなバングラデシュに触れることができた。中でもNGOが行っているストリートチルドレンへの支援活動の見学の様子を書かれていた報告書がいくつかあって、すごく参考になった。特に土井さんの報告書にあった、「ストリートチルドレンは、途上国ではありふれた光景のようですが、親から逃れてこなければ生きる術がなかった子たち、または一人にならざるを得なかった子の、大人への復讐を回復するのにどれだけ道のりが遠いか、ダッカのNGOのストリートチルドレンの取り組んでいるプログラムを聞いたとき感じました。」という言葉をみて、素直に感動した。そして少しだけストリートチルドレンに近づけた気がし

file://D:¥kouichisouninn¥2000S1B38¥doisan.html

8　１年間を振り返っての生徒の感想

・毎回、総合人間科がある度、嫌だなあ、面倒だなあ…と思っていましたが、振り返ってみると、これ程充実した授業は今までに受けた事がない！と言っても過言ではありません。高校受験志望理由の一つであったわけですが、本当に入学できてよかったと思います。
是非、他校でもどんどん取り組んで欲しいと思います。
ＨＰ作りができたことも、新鮮で良かったです。アポ取りなど、普段自分では全然やらないことができて良かったです。

・動物が好き！！という理由でこのテーマに決定し、１年間調べてみて、動物についての沢山の問題を知ることができました。
動物の絶滅は思っていたより深刻な問題だったし、実験動物への興味もわきました。
今のままでは環境はもっともっと悪くなり、動物だけでなく人間も住めない地球になってしまいます。これからも環境問題や保護活動について深く調べていきたいです。

・このテーマを調べる前までは、なんとなく、自然の摂理を操作するということに、反対の気もちがありました。調べてからもクローンについては賛成できませんが、遺伝子操作によって病気をなおしたりすることもできるというのは、とても便利で、技術を良く利用できるから、いいんじゃないかなーと思いました。しかし、やっぱり遺伝子操作についての知識のない人にとっては、これを調べる前の私と同じように、何となく「危険」という意識のある人が多いみたいで、なかなか実現は難しいようです。とても残念なことと思います。いろんな人が遺伝子操作についてある程度の知識をもつことが、正しい判断を下すのに大切なことだと思いました。

・この１年間、思い返せば大変だったな、と思う。
まず自己テーマ探し。「生命と環境」という広い高１のメインテーマの範囲で、自分が最後まで興味を持って調べ、学んでいけるようなテーマにはかなり悩んだ。
そして、フィールドワーク先の決定とアポ取り。自分で訪問先を決め、電話をかけて、アポを取る、というのは初めてだったので、最初はかなり緊張した。第１回フィールドワーク先は、先生の推薦もあって、スムーズに決めることが出来た。第２回目は、午前と午後の２ケ所に行かなければならないとあって、名大内に絞ることにした。けれどなかなか自分のテーマに合った講座を見つけられず、あっても、お話を伺いたい方と日程・時間の都合がつかなかったりした。友達と協力して、やっと２つのアポが取れた時は本当にうれしかった。アポ取りも最後の方になってくると大分慣れ、言葉がスラスラ出てくるようになっていた。こういう所が、総合人間科のちょっとした良い所なのだろうな、と思った。反省すべき点は自主学習ノートだろう…。

・私には、虐待する側の気持ちもされる側の気持ちもこの一年間の中で少しもわかることはできなかった。
私は母親ではない。子どもをもっているわけではない。だから子育ての難しさも苦しみも少しもわからない。
私は幸せ。悩むことも涙を流すことも宝物だと思える。大切にできる。だから私には、幸せでない人の気持ちは少しもわからない。…私は人にはなりえないから…。
ここには、あえて私の理想としての親子像を書いておこうと思う。あくまで独りよがりな理想論として一読していただければ幸いです。
先生がおっしゃっていた「子育てにコツなんてものはない。なんとかなるさ。っていうのも大切なんだ。」と。
私は、もしも子育てを楽にする方法があるとしたら、それは一つしかないような気がする。…幸せであること…。親子愛がなんなのだ。家族愛がどうしたというのだ。そんなことを考える必要なんてないのではないだろうか。親だって、人間なんだ。大人だって、疲れるんだ。悩んだり、苦しんだり、泣きたくなるときもあるんだ。「子育てなんて嫌だ」って、思わない方が不思議。でも子供を幸せへの妨げのように思ってしまうのだとしたらそれはおかしい。
誰だって幸せになれる、きっと。幸せはあなたの心の中に。では…「私もあなたも幸せですよね。」…どれだけの人がこの問いに首を振るのだろう…。
結局、幸せなんてものは、なんでもない小さなものなのかもしれない。「過去」の幸せ、「今」の幸せ、「未来」の幸せ、すべてがあるから生きていける、私はそう思う…。
私がもし、いつか結婚し、子供を生んで、母親になったら、子供の夜泣きにイライラするかもしれない。それでもいい。次の日無邪気な寝顔に微笑んであげられたら。おしめを取りかえてあげるとき、汚いのが嫌で泣いてしまうかもしれない。それでも…その後、その子を抱きしめてあげられたら。…親の幸せは子供を幸せにする、きっと。「人間失格」、「大人失格」「親失格」そんなの、ないんだ。

・私は、今年の総合人間科で少年犯罪についていろい

ろ調べてみて、今まで遠い世界のことだと思っていた少年犯罪が、人事のように考えていてはいけないな、と思いました。それは、自分が犯罪をおこす、とかそういうことではなく、犯罪を犯してしまった少年達は自分達を理解してくれる人を必要としているから、少しでも少年の立場になって、理解してあげられたらな、と思うからです。

・この１年間この「高齢者と住まい」というテーマで学習してきていろいろなことを学ぶことができました。私が予想していた以上に住宅のバリアフリーに関してだいぶ前から考えられていました。そして、それにあわせた多くの住宅が出来ていました。住宅会社はどんなことが行われているかは知っていましたが市営住宅がこんなにもいろんな管理がされているとは知りませんでした。今回は市役所に行くだけでしたが機会があれば高齢者向け市営住宅を見にいってみたいと思います。
これから世の中は「高齢社会」になろうとしているのでバリアフリーはいままで以上に当たり前になっていきます。それにおいていかれないようにしなくてはなりません。私達が高齢者になる頃には住宅はどのように進歩しているのでしょうか。今後、私達がどれだけ進歩させられるかに関わってくるのでしょうね。私もそんな世の中においてかれないようにしなくては！！！

9　各指導教官より１年間のまとめ

中村　明彦

今回の総合人間科はサブテーマが示すように、“繋がり”に特色があった。同級生の取り組みが自分とどのように“繋がり”そして、影響し合うか楽しみな面があった。また、“繋がり”を探る為に、お互いの取り組みに関して発信したり、情報を収集したりすることにより、個人研究ではあったが例年よりはコミュニケーションを取る機会の多い時間であったと思う。次に、“身近なことから考える”という副題に沿って、生徒の個人テーマが出発したことにより、自分の興味関心が際確認され、身近なテーマを選んだ者も多かったのではないか。それが逆に、内容を研究・追求する場面やフィールドワークで多少のつまづきとなった者もいたように思う。２週間に１回の総合人間科の授業のため、自分のテーマの研究・追求につまづきを持った者への教師のアドバイスが十分ではなかったと反省している。それは教師側の学習不足のため、多方面からのアドバイスができなかったことによるものだと思う。生徒によっては、フィールドワークにより研究を進める内容に深みができた者もあったので、短い取り組み時間に、普段の学習活動とは違う「自分で課題を設定し、自分で学習する」という総合人間科の学習方法が少しは身についたのではないかと思うが、「学び方を学ぶ」という面をもう少しアプローチしていく必要性も痛感している。最後に、今回の取り組みのまとめは、新しい試みとして企画され実行された。

Ｗｅｂページの作成を全員が挑戦し何とか完成できたことは、新しい総合人間科のかたちを作った第１歩として今後評価されるのではないだろうか。

佐光　美穂

＜前期を振り返って＞

心理系　教育系担当

全体的な印象として、問題意識や興味の対象がはっきりしており、自主的に調査を継続している生徒が多く見うけられた。

また、グループ全体での話し合いは、幼児虐待の問題を扱う生徒は活発に行うことができた。話し合いの時間自体が少なく、やむ得ない面はあるが、互いの持っている知識を共有させたり、心理系と教育系のグループとの視点の重なりを意識させる機会を与えられなかったのは残念だ。(各々の学問のメソッドが同じような対象を違う物として見せてしまうことが実体験させられれば、進路選択の際大変有益と思われる。)

初めて総合人間科に取り組む生徒への配慮が、特に前期では行き届かなかったのが反省点である。怪我の功名という感じだが、同じグループ内の附属中出身の生徒が、フィールドワークの時に、上手にサポートをしてくれた。

＜後期を振り返って＞

調査したりまとめたりという活動が苦手な生徒が多かった印象がある。研究結果の発表を、文章やホームページ以外の方法でもよいということにすれば、もっと活躍できたのかもしれない。(例えば、調べてきたトレーニング方法を半年実践してみた結果を実演するとか、人を癒す効果のある音を皆に聞かせて感想を言ってもらうとか方法は様々あるはずである。)

体育も音楽も専門とする教官がおり、研究内容自体の助言をそちらにお願いする形をとることが多かった。それでいいのかという思いは残るのであるが。

川田　基生

（１）テーマ設定に関して

「大気汚染」「自然環境の保全」「多重人格」「地球の環境問題」「遺伝子」「親子関係」「アレルギー」「都市計画」「高校生の犯罪」などのテーマが生徒によって設定された。指導する側は、法律学、経済学、政治学といったあたりが専門で全く一致していないのが心細いが、流行の分野で資料不足にはならないし、大学や市

役所には専門の方が必ずいて生徒は順調に学べたように思われる。

（２）フィールドワーク

携帯電話の普及もあり、訪問先の予約はとれていた。協力的な方が多く、全体として良好な成果があがっている。もちろん苦情もあり、高校生にまともにとりあってくれない所もありで、しばらくの時間、生徒の心中にわだかまる怒りを聞いてやることも必要であった。

（３）発表、報告の在り方

レポートの書き方は全体的に読みやすい。コピーが簡単に使えるようになり、パソコンとプリンターがある家庭も増え、美しい仕上がりの提出物が増えている。ただ、文章の内容がわかっていない部分もあり、取材先の性格に似た雰囲気を持つレポートになる。ホームページの制作は画期的であるが、生徒がゆっくり読む機会が確保されていない。保存がいつまでか、書き換えの希望など、まだ対応できないことも残されている。

三小田博昭

１年間「生命と環境」をやってきて感じたことは、ここでみなさんが学習し、研究してきたことが、実際の生活の場面において、活用されているかということです。教室がゴミだらけだったり、分別ができてなかったり、紙なんかの無駄使いや、大量消費も世界に没頭していたりと、いうことが、少しでもなくなっていったら、それだけで今年の総合人間科は成功したであろうと感じます。机上の倫理だけで、終わってしまうことがないようにしましょう。

また今年はコンピュータを多く利用してみました。これまであまりコンピュータには縁のなかった人たちには、いささか大変な作業だったでしょう。でもここでがんばったことによって、少しは興味なんかもでてくるのではないでしょうか。ＣＤ－ＲＯＭがついているでしょうが、それを開けてみてふりかえったりしてみましょう。私自身もこの授業を通してコンピュータをみなさんと一緒に学んできました。決して以前から知っていた訳ではなく、この１年間でたくさん覚えました。たくさんの失敗もありましたが、楽しい１年間の総合人間科だったと思います。

西川　陽子

担当生徒

前期

遺伝子グループ－遺伝子操作、遺伝子組み換え食品、遺伝子診断、クローンなど

医療グループ－アレルギー、小児医療、人工臓器、献血など

後期

分類不能グループ－都市、恋、食、犯罪など

フィールドワーク

訪問先を決めるのに苦労したり、アポイントを取るのに苦労したりした生徒たちもいたが、ほとんどの生徒たちは、２回のフィールドワークで合計３箇所を訪問することで、文献調査やインターネット検索では得られない実体験をすることができたり、最新の研究分野の話を聞くことができたことは良かったと思う。

まとめ

今回はホームページを作ることで１年のまとめを行った。例年に比べると文章の量が少ないものがいくつかあったのが残念であったが、一人ひとりが、個性のあるホームページをつくることができたように思う。また、今回は校外に発表することができなかったので、今後の課題として考えていかなければならないと思う。

米田　閏一

本年度の高一の総合人間科の授業はとても充実していたように思います。生徒のみなさんの総合人間科に対する思いといいますか、取り組み方が純粋で情熱的でさえありました。例年ですと、こちらの方があれこれとかなりテコ入れをしていかないとなかなか進行していかないという場面もあったように思いますが、今年の場合は全く反対でこちらの方が研究のレベルに圧倒させられてしまいそうな雰囲気でしたし、私自身が感心するやら教えられるやらで、とても感動させられました。

これからの生徒の皆さんの成長がとても楽しみな気が致しますし、またその期待に充分応えてくれる皆さんだと確信しています。本当にご苦労さまでした。

矢木　　修

一年間の「総合人間科」を振り返って

私は高１の総合人間科を担当するのは２回目であって、前回は環境問題を担当したが、今回は「難民問題」「少年法の問題」「絶滅する動物の問題」等、現代の社会問題の担当であった。高１の学年テーマ「生命と環境」に人の命と絡めて迫っていく問題である。

例えば「絶滅する動物」について、Ｂ組の竹内さん、Ｃ組の遠藤さん、五藤さんが取り組んだが、ただ単にどんな動物が危機に瀕しているか、それに対して我々はどんな対策をとる必要があるか等を考えていくことも重要であるが、何故危機に瀕しているのかを考えると、「人間のエゴ」が見え隠れしている。人間が生活を豊かにするために、毛皮を取る、ペットにする、食料

にする等のため乱獲によって絶滅に追いやられていることもある。また、必ず環境問題が出てくる。環境が悪くなって動物たちが住む場所が奪われて絶滅していく。しかし、その環境問題を考えても、そこには「人間のエゴ」が出てくる。リゾート開発でホテル、ゴルフ場建設のため豊かな自然環境を破壊していく。また、先進国の利便性追求のため、発展途上国の環境を破壊していくこともある。森林破壊もその一つである。さらにエネルギー資源確保のために環境が壊されていることもある。その結果動物の住みかが奪われ絶滅に追いやられているわけだ。

このように人間のエゴによって、結局は自らの生活環境が壊されていっていることに気づかなければならない。我々はついつい利便性を求める。利便性を求めることが、自分の首を絞めると言うことを頭の中で理解していても、現在の生活水準を下げてまで、「環境問題」「動物問題」を考えていこうとはしないだろう。この「総合人間科」では、自分自身の生き方を考える時間ではあるが、現代の社会問題を考えることによって、人類そのものがどのような生き方をしていかなければならないのか考える良い機会でもある。生活の利便性を求めるのか、それとも地球全体の将来を考えるのか、重要な問題である。目先の事よりもグローバルな視点で考えていかなければならない。

次に「少年法」問題であるが、B組の二瓶さんが取り組んできた。また「死刑問題」をB組の中村さんが取り組んできた。いずれも現在は犯罪抑止力のため刑法を改正しようとしている。少年法の問題では、タイムリーというかこの一年少年犯罪しかも凶悪な犯罪が頻発した。そのために少年法適用年齢を改正してきた訳であるが、本当に少年法改正が犯罪抑止力になるのか疑問である。少年法の精神を見直す必要がある。また少年を取り巻く環境に注視しなければならない。「死刑問題」でも同様である。人間が法の基に人の命を奪う事が本当に許されるのか、犯罪者は命を奪われても仕方がないだけの犯罪を犯してきたんだ、被害者の事を考えれば当然だという考え方もあるだろうが、それで良いだろうか。結論は二者択一ですぐには出ない。でもここでの問題を考えることが、人間は一体どんな動物であるのか、どうすれば人間は共生していくことが出来るのか、本質を見ていくことに繋がっていくと思う。

総合人間科に取り組むことによって、自分の生き方そのものが見えてくるような気がする。いや自分の生き方が見えてくるようにテーマ追求していくことが、本来の総合人間科の目標であるはずだ、この一年の取り組み単発で終わることなく、これからも各自の興味を追求していくことを願って止まない。